

石川県中小企業家同友会

doyu
ishikawa

2

2022.Feb.

令和4年2月

No.500

www.ishikawa.doyu.jp

祝500号
記念特集号

熱い経営者と 共に学ぶ

To be continued...

記念座談会

自分の言葉全てが広報、継続が歴史をつくる

特集クローズアップ

株式会社シー・プランニング

仕事も同友会も人生もストーリーをデザインする

記念事業承継

株式会社庭芸社

みんなが生き生きと明るく働ける企業へ

▼詳しくはこちらから



祝! DOYU石川 500号記念座談会



南 純代 副代表理事
(株)日本海開発
代表取締役社長

下出 美香
理事・女性部会長
(株)KI-RA-RI 代表取締役

橋本 昌子 代表理事
(株)スパークル
代表取締役

徳久 宏子 理事
(有)とくひさ
代表取締役

司会:藤元 澄代
理事・広報委員長
かなざわ・凜や 代表

1976年6月創刊

女性理事の視点から同友会の広報活動を語る

DOYU石川は石川県中小企業家同友会が創立された翌月1976年6月に創刊号が発行されました。それから約46年、本号で500号を迎えました。500号記念企画として、石川同友会初の女性代表理事となった橋本昌子代表理事をはじめ、女性の理事で座談会を開催しました。会報誌を毎月見ての感想や、同友会の広報活動をどう展開するかなど、女性の視点を交え語り合いました。

どんなことがあっても発行を止めない



藤元：会報誌は会内外へ同友会を広報し、時代と共に内容や見せ方も進化しつつ、会員間を繋ぐ役目も担ってきました。

広報委員長として、昨年来のコロナ禍の中、どんなことがあっても発行を止めないという想いで続けてきました。今年創立45周年の節目に会報DOYU石川は500号を迎えることができ、とても感慨深い思いです。

皆さんはDOYU石川を読まれてどういった感想ですか？

橋本：手に取って開いてみたいと思える会報誌だと思います。カラーで見やすく、実践報告がショートバージョンで掲載されているので、さっと読めるのもいいです。人や会社の紹

介、活動内容が見る人に伝わり、写真もカッコよく、会のイメージアップにつながっていると思います。



南：入会時の会報誌は案内が多く白黒だったので、あまり見ていませんでした。今はシリーズ化されていて、今月は誰だろうと楽しみにしています。銀行や行政にも配布されているので、知り合いから声をかけられることも多くなりました。

徳久：新聞は短時間で読めませんが、会報はポイントをまとめてあるので、さっと目を通せるところがいいです。

下出：委員会の活動に参加するようになると、例えば経営指針講座と一緒に受けた仲間が載っていると注目して読むようになります。全国版ではなく、石川という地方だけの情報なのでとても身近に感じられます。

頭のテッペンから足の先まで作業用品なら何でも揃います!



作業服&制服
株式会社
アイビー

☎920-0065 金沢市二ツ屋町7-13
本社 TEL(076)231-1121
E-mail ibc@ib2011.com

金沢中央店
☎920-0065 金沢市二ツ屋町7-13
TEL(076)231-1121(代)

野々市支店
☎921-8801 野々市市御経塚4-93
TEL(076)227-9891(代)

アイビーグループ アイビー七尾
☎926-0033 七尾市千野町へ9番地
TEL(0767)57-3740(代)

司法書士・行政書士・社会福祉士 のさか司法書士事務所

時間と手間がかかる相続手続き
もしものための遺言書の作成

〒921-8013 金沢市新神田4丁目13番9号
TEL: 076-291-7540 FAX: 076-292-0954



自分の言葉全てが広報、継続が歴史をつくる

広報とはファンをつくること



橋本：広報とは自分達のファンを作ることだと思います。自分の会社をどう発信するかと同じで、同友会では、その理念や活動内容を社会に知らせ、ファンになってもらうことです。つまり、同友会は社会を良くしていく運動だということが伝わる広報だいいと思います。

南：広報として、委員会の動きがもう少し発信できたらと思います。予定はQRコードからホームページで見ってもらうようにして、活動の様子を多く発信してもらいたいです。

藤元：他県では広報委員会で掲載記事を選ぶほど、委員会などの行事報告が集まってくる同友会もあります。石川は未だ寄稿をお願いしています。文字化は難しいことですが大切なことです。会全体で取り組んでいければと考えています。

広報のツールはSNSを中心に益々増えています。私が報告する例会を個人のFacebookに投稿したら、ゲストがたくさん参加してくれました。広報は委員会だけでなく全体で、そして一人一人が行うことだと思います。皆さんが思う広報とはどうのことでしょう。

品格のあるものに人は集まる

橋本：FBで代表理事就任を発信したら、会員になりたいと返答がありました。同友会は自分の成長に繋がっていますので、まずは品格を心掛けて広報しています。石川の10年ビジョンにもある「調和と品格」は大切なことです。品格のあるものに人は集まります。目指すものとして掲げておくべきです。

南：女性の代表理事ということで、周囲には知ってもらえるようになりました。女性代表というインパクトで覚えられていて、それは品格にも繋がっていると思います。

藤元：女性代表は女性にとっても大変誇りです。しかし、ジェンダー平等からすると、女性の・・・ということが不平等と捉えられます。これが普通となる言動が大事だと思います。

橋本：「女性が頑張ってるね」というだけではなく、次のステップとしては、性別ではなく、やっている事業（経営）を視点に

話すようにしていかないといけないと思っています。

一人一人が輝く人になる

徳久：弊社では、ファンづくりを一人一人のスタッフが行っています。同友会への入会をお誘いする時、自分が輝いているかどうかは大きい判断材料になります。輝いている人がたくさんいる会は入りたいと思うはずで、一人一人が輝いている人間になることが大切だと思います。



橋本：会を見るのは活動を通してです。その活動を発信するのは一人一人です。つまり自分の言葉全てが広報です。家で仕事の愚痴を言うと家族は仕事を応援しようとは思いません。弊社では社内報を紙で渡します。それは家族に見てもらうためです。広報活動と会社の経営は不離一体です。理念に基づいた運動を会として定期的に継続的に発信していくことが大事なことです。



下出：プラスのイメージはとても大事なことです。弊社では健康通信を発行して小さなアドバイスを発信しています。年配の人は特に気に入って見られています。DOYU石川も社員が手に取りやすい所に置いています。

藤元：DOYU石川には45年間、500冊分の歴史があります。広報委員の笠井一里会員（株）庭芸社）は、先代の父親が2001年10月号のDOYU石川のトップインタビューというシリーズに掲載されているのを見て、当時の想いや取り組みを知ったと言います（6面掲載）。同じく藤井敬士会員（株）シコウ）も自分を会社に引き入れてくれた（故）創業社長が自分の想いや将来のビジョンを当時の会報に掲載していたのを見て、改めてその想いを知り、いまの経営理念にたどり着く後押しになったそうです。まさに継続が歴史を作ってきたのだと思います。今後も同友会の理念、運動を発信し続けていきたいです。本日はありがとうございました。

（文：井上千夏 事務局員/写真：吉村浩史 広報委員）



てまりグループの地域包括ケア

医療 薬局

生活支援

リハビリ型デイサービス（てまりフィットネス）

住まい 住宅型有料老人ホーム
〈ひなの家・ひなの家 彩～いろどり～〉

介護 小規模多機能ホーム
〈ひなの家 押野〉

てまりグループ本部 〒920-0362 石川県金沢市古府2丁目50 TEL.076-287-5933 TEL.076-287-5950 <https://spatel.co.jp/>



C
L
O
S
E
U
P



仕事も
同友会も
人生も
ストーリーを
デザインする

株式会社シー・プランニング
代表取締役 **金谷 道憲** 会員
(石川同友会前代表理事)

同友会は包摂的な生涯学習の場

1989年、今から30年以上も前に、同友会に入会した金谷前代表理事は、今でも胸に突き刺さっている言葉があります。

入会して間もなく京都での全国研究集会に出席し、グループ討論で入会した目的を聞かれ「仕事を取るため」と答えました。他県の理事の方から「君ね、しばらく雑巾掛けをしなさい！」と言われます。まずは自分を磨きなさいということです。それからは意欲的に例会や委員会に出席し、会員増強にも励みました。理事に推薦されてから、代表理事になるまで20数年、同友会を通して、素晴らしい人生を歩んでいる経営者のストーリー、経営物語を聴かせていただく機会がたくさんありました。まさに同友会は包摂的な生涯学習の場でもあると思います。今思えば、「雑

巾掛け」とは、単に人間性を磨くことに留まらず、与えられた役をしっかりとこなしていくことであり、また、同友会の活動や運動をし続けることで、同友会の理念の奥深さを理解し、同時に会社の経営レベルを高めていくことをよくしていくきっかけの「包摂的な言葉」であったと思います。

同友会で培われた言動を、意外にも周りの人たちはその姿をしっかりとみえています。そこで初めて人間関係も仕事も繋がるのだと思います。これからも「よい経営者になろう」を目指して頑張っていきます。

人と人を繋ぐストーリーを作る

昨年、建築デザイン賞や広告景観賞などを受賞しました。反面コロナ禍やウッドショックなど、今までのデザイン力だけでは立ち行かない時代になりました。当社の経営理念は中国の古典『荘子』(そうじ) からとっており、その中のストーリーを



人とまちに **HAPPY SMILE!**



株式会社 **絹川商事**

国土交通省賃貸住宅管理業社/国土交通大臣(02)第2073号
宅建番号/石川県知事免許(14)第738号
建築許可番号/石川県知事許可(般-1)第17153号

本店	野々市市住吉町 9-32	(076)248-2150
野々市中央支店	野々市市本町 5-4-10	(076)248-8787
金沢工大前支店	野々市市高橋町 24-3	(076)248-1176
野々市つばき支店	野々市市栗田 5-380-1	(076)287-3110
建設部	野々市市二日市 1-52	(076)248-1200

絹川商事 HP <http://kinukawashoji.com/> 絹川商事 Facebook もあります



住む家のストーリーをデザイン
ここに「希望」がある

第48回石川県デザイン展受賞
「新屋根の家」



社員共育にも活かしています。

成功している人、経営者はストーリーをたくさんもっているものです。人が住む家にも沢山の想いがあり、そこにはストーリーがあります。そのストーリーをデザインし、希望を建築すること「人と人を繋ぐストーリー」を作り上げることを目指しています。そこに [] がある。カッコの中をあえて空白にし、顧客と共にその空白に何が入るのかを一緒にデザインしています。

ウェブサイトもリニューアルしました。今後も C + R E S T (シープラスレスト)「時めく暮らしと閑閑自適の住居を創造的につくる」という社是のもと、一年一年を木の年輪のように積み重ねていきます。

ターニングポイントは「雑巾がけをなさい！」

同友会には必然的な歴史があり、多くの経営者たちから、素晴らしい人生のストーリーを学ばせてもらっています。自分

の恥なる体験、「雑巾がけをなさい！」、心に沁みる先輩のアドバイスが私の経営のターニングポイントになっています。同友会の芯をずらさず、それを信じて経営をしていけば必ず道は開けるもの。仕事も、同友会も、人生も、奥深いストーリーを創り出すことで経営人生が楽しくなる。これからもさらなる「ストーリーをデザインする」ことを続けていきたいと思っています。

(取材:乙丸屋 久兵衛 広報委員/中島 茂雄 広報委員)

Corporate Data

株式会社シー・プランニング
所在地 / 石川県金沢市八日市1-639
設立 / 1970年 (昭和45年)
資本金 / 3,000万円 社員数 / 20名
事業内容 / 住宅建築設計・工事・監理

BARBER STAGE
RYOYUEN

〒920-0031
金沢市広岡1丁目10-9クオリティシャットウ103
TEL / 076-255-6686 MAIL / barberstage.ryouen@gmail.com

給食事業 食材宅配事業
カレー事業

ケービーエフ株式会社

〒920-0017 石川県金沢市諸江町下丁216
T. 076-255-2690 F. 076-255-2698

§ 広告募集 §

1/3段 : 月3,000円
四半期毎請求
(1年更新)
申し込みは同友会事務局まで

succession

シリーズ事業承継

500号記念
DOYU石川が繋ぐ
事業承継

株式会社 庭芸社

代表取締役 笠井 一里 会員

(3) [石川総合2]

2001年 (平成13年) 9月25日 (火)



い発想・企画力を持ち、実践できる社員を育てることが第一です。幸い、業界は若者に人気があります。それはものを作り上げるといふ楽しみ・満足感を味わえるからです。



一九七九年一月の創業以来二十二年、造園・外柵工事で快適な空間、心のやすらぎを提供し続けている(株)庭芸社の笠井順一社長に経営への思いを語ってもらった。

緑化フェア開催で上期はしのいだ感がありますが、業界全体としては厳しい状況だと思えます。ただ、地球環境という大きな分野で考えれば、努力次第でビジネスチャンスはまだまだ拮げると確信しています。そのためには、既成概念に捕われない自由な新し

探究心と実践で時代に新風を

そして、どうしても職人気質に陥ってしまいやすい業界なので、経営者自身が絶えず探究心を持って見聞を広め、仕事の楽しさを身をもって社員に教えることだと思えます。そうすれば社員はついてきます。これはどの業種・業界・企業も同じだと思います。

仕事へのこだわり、伝統を重んじることは大切ですが、世代・住宅事情の変化に合った提案型造園工事ができる業者のみが生き残れる時代になり、絶えず少し先を見る眼と景気動向に左右されない仕事づくりが自分の役割と自覚し、IT時代にも果敢に対応できるオールマイティーな職人集団づくりが現在の課題です。緑化フェアを契機に自然・環境への思いがさらに広く根付くことを期待しています。

みんなが生き生きと明るく働ける企業へ

弊社は1979年(昭和54年)に父が創業し、私は2代目として2020年8月に事業承継し代表取締役に就任しました。父も同友会で学び、2007年に退会しましたが、私は「経営の勉強をするのなら同友会」という父の経験からの想いもあり、10年後の2017年に同友会に入会しました。

父が掲載された会報を見て取材

先日、父が掲載された約20年前の会報記事(写真上)を事務局から見せてもらったことをきっかけに、当時

の父は同友会でどんな活動をしていたのか、どんな想いで経営していたのか、改めて知りたくなり父に取材しました。

理論立てた経営が学べる場

父が同友会に入会したのは約30年前の1993年。当時、中小零細企業が経営の勉強ができる場は今ほど多くはなかったそうです。経営に関する本を読んだり、経営コンサルタントを招いたりもしていましたが、知人であった株式会社北陸サンライズの木村竹芳会員に「あなたの経営は勘を頼りにしているように見えるが、理論立てた経営

感動イノベーション。

株式会社 宗重商店

解体道の極意はこちらから

美しく、

丁寧に、

心を込めて。

それが宗重商店の

「解体道」。

美しく、

解体道



【経営理念】



- 1 機能と安らぎが共存する環境づくりで、地域社会に貢献する。
- 2 企業の継続的発展を目指し、合理的構造改革に数値を持って挑戦する。
- 3 私達の幸福は、自分自身を磨き変化に挑み、無限の可能性を信じることにより生まれる。

を学べる場がある」と同友会を紹介されたことがきっかけで入会したとのことでした。

同友会で経営指針を徹夜で作成

当時の同友会は今に比べ創業者が多く、ハチャメチャな活気に満ちていたそうです。高度成長期の中期から末期にかけての背景の中で、がむしゃらに働けば業績が比例したといいます。

同友会の講座の合宿で経営指針を徹夜で作成し、仲間と切磋琢磨したエピソードを聞き、同友会の精神は連綿と現在につながっていると感じました。当時の同友会の仲間との交流は現在も続いているそうです。

大切な軸を実現する決意を新たに

私が記事を読んだ率直な感想として、取材で語られている「提案型造園工事」「先を見て景気に左右されない仕事づくり」「仕事の楽しさを教えオールマイティーな職人集団づくり」、これらを父は実直に実践し、軸となる部分は変わらず現在の自社にもあり続けていると思いました。

父が経営者として時代の先を読み行動してきたからこそ承継できる現在があり、さらに先につなげていくために私は何をすべきか考えさせられたと共に、自分が大切にしたい軸である「みんなが生き生きと明るく働ける企業」を実現させていきたいと決意を新たにすることができました。

(寄稿：笠井 一里 会員)

明日へつなぐ——。

中村FPコンサル

【本社】白山市湊町3-38
TEL.076-278-4847 FAX.076-278-4948
【金沢店】金沢市泉野町2-1-42-2

S N I P

076-262-3377
金沢市モリの里



祝

創刊500号に寄せて

機関紙の役目は「情報発信」「繋げる」「広げる」

宇佐見 孝 氏 中同協・広報委員長



「DOYU石川」発行500号おめでとうございます。オールカラー刷りの紙面は非常に見やすく、読みたくなります。また表紙の会員さんの笑顔がいいですね、私は同友会としての社会的存在意義を表すのが機関紙だと感じています。最近ではコストがかかるので機関誌をやめて、ネット配信にしたらどうかと提案をする会員さんも見えます。紙の情報媒体は、通信端末のSNSに比べると記憶に残る情報量が全然違うと聞いています。また、ネットの配信になれば、読まない人が多くなる気がしますし、機関紙は人の手で送られてくる

からこそ読むのです。

同友会の機関紙の役目は情報の発信です。何故、機関紙は必要なのか？それは、地域ならではの情報が多いということです。知られていない会員の会社や何をしている会社なのか、また地域の特産物や観光名所など知らない情報を知ることができます。

機関誌の役目は3つあると思います。1つ目、情報発信（中小企業の情報や地域の情報）2つ目、繋げる（会員同志を知ってもらうこと）3つ目、広げる（同友会運動を広げていくこと）です。

「DOYU石川」が600号に向けて会員に愛され続ける機関紙であることをお願いしたいと思います。

事務局は伴走者でありパートナー

藤元 澄代 会員 石川同友会・広報委員長

今回、DOYU石川500号の発刊に際して、会員を代表し事務局の皆様にお礼を申し上げたいと思います。

同友会運動を進めていく上でかせない人、それは事務局の方々です。事務局は単なる「事務」ではなく、連帯した「伴走」をしています。どんな時でも寄り添う姿勢に多く

の会員が感謝の気持ちを持ち、学びを得ているのではないのでしょうか。

私たちが目指す「よい会社」「よい経営者」「よい経営環境」は果てしない道のりです。だからこそ、これからも最高のパートナーと共に、地域の発展を目指していきます。

※通常7面掲載の行事案内(2月支部例会)は別添にて同封しておりますので、ご確認下さい。

入会のお申込み・お問い合わせは

石川県中小企業家同友会事務局
Tel.076-255-2323

今月の表紙

表紙写真提供:株式会社橋本清文堂 橋本 雅生 会員

発行/石川県中小企業家同友会 〒920-0059 金沢市示野町南52 AKビル3階 tel.076-255-2323 fax.076-268-5656



すべての企業は、潜在能力を眠らせている。

サクセスブレインのミッションは、企業を黒字化し、永続する企業にすること。そのミッションを達成するために、企業が潜在的に持っている100の力を、最大限に引き出した。そのためのマネジメントを組織をあげて支援します。

株式会社サクセスブレイン
税理士法人サクセスブレイン

〒920-0364
金沢市松島2丁目191COMビル3F
TEL:076(269)8653 FAX:076(269)8654
URL:www.success.co.jp